

農地からの赤土等流出防止 対策について(営農的対策)

平成20年8月

沖縄県営農支援課

営農的対策

農地からの赤土等の流出防止を図るためには、発生源対策が重要です。特に農家による個々の農地での耕作、畑面管理時に行う営農対策は速効性があり効果的であるとされていることから、各地域において営農指導の他、普及啓発に取り組んでいます。

1. 主な営農的対策

○発生源(畑面)被覆対策

作物植え付け前後に発生する畑面の裸地状態を植物、資材等で被覆することで解消し、雨滴侵食による赤土等流出を軽減する。



緑肥作物栽培(ピジョンピー)



さとうきび葉殻によるマルチング



パインアップル畑でのビニール及び稲藁マルチング

○発生源(畑面)下流端対策

畑面下流端部に植物、資材等を植栽、設置しフィルター機能を持たせることで畑地外への赤土等流出量を軽減する。



さとうきび葉殻梱包の設置



グリーンベルト(ゲットウ)



簡易流出防止対策

2. 営農指導・普及啓発の取り組み

○営農指導



ほ場カルテ、営農普及マニュアル等による指導

図1 トランソウ・バネアップルを栽培したほ場の土壌流出防止対策

図2 赤土等流出防止対策申請書（ほ場カルテ）

図3 赤土等流出防止対策申請書（ほ場カルテ）

図4 赤土等流出防止対策申請書（ほ場カルテ）

図5 赤土等流出防止対策申請書（ほ場カルテ）

項目	内容	備考
圃場番号	10090	用途
カルテ番号	432	田圃面積
土壌流出量	8.3 t/年	単位集計量
赤土流出量	13.9 t/年	上：赤土流出量
流出削減率	6	削減率
削減率	146 m	削減率
土壌	団粒構造	団粒
耕作機	バネアップル	団粒構造が崩壊しやすい
耕作方法	機械	団粒構造が崩壊しやすい
下流に防壁	1 基	防壁なし
排水路（1）	0 基	排水路なし
下流に防壁	0 基	防壁なし

営農普及マニュアル

ほ場カルテ

○土壌保全月間による普及啓発活動 →

土壌保全月間とは？

目的：農家農業生産活動の場から、土壌流出を未然に防止するため梅雨時期にあたる5月の第3週月曜日から30日間を「土壌保全月間」として設定し、土壌保全の必要性について農家個々の意識の高揚と啓発を図っている。

実施場所：北部、中部、南部、宮古、八重山の各地域（市町村）

実施内容：営農対策デモンストレーション、関係資料の配付、講習会など



○マスコミ等と連携した普及啓発・PR ↓

石垣市では、農家の取り組みへのインセンティブを高めることを目的に積極的に公表・評価しています。

徐々に浸透、着実に普及している状況です。



クワンソウと藁が梱包で二重に対策された小成さんのほ場

真米里上原 小成英造さん(67)

クワンソウで土留め効果

石垣市 平成43

クワンソウと藁が梱包で二重に対策された小成さんのほ場

赤土流出防止対策

入賞農家の紹介

01

3. 営農的対策推進の課題

前述のとおり、農家による個々の営農対策は速効性があり効果的であるとされています。

しかしながら、各種営農対策は通常の営農上では必要としない対策もあり、収益性の向上に結びつきにくいこと、また、営農活動外の作業が必要なことから、高齢、零細規模経営の多い農家に取っては対策の実施自体が負担となるため十分な取り組みが困難なのが現状です。

現在、営農対策への具体的支援事業が無い状況にあることから、一層の赤土等流出防止対策推進に当たっては、今後、これら農家による取り組みを環境保全への貢献度として適切に評価するための基準の検討及び支援施策の検討が重要な課題だと考えています。

